

西湖で採捕されたマス類について

誌名	事業報告書
ISSN	02862166
著者	大浜, 秀規
巻/号	24号
掲載ページ	p. 61-63
発行年月	1996年10月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



短 報

～ 西湖で採捕されたマス類について ～

大浜 秀規

筆者らは西湖においてヒメマス増殖技術の開発を行っている¹⁾。その調査で数種類のマス類が採捕された。また、この調査に際し西湖漁業協同組合の三浦組合長から大型のマス類の提供を受けた。これらマス類の検索等を行ったのでここに報告する。

検索は、脂鱗がある等の外部形態からサケ科とした上で「日本産魚類検索」²⁾により検索を行った。また同時に各部の計測及び観察を行った。その結果を表1に、また標本の写真を図1に示した。

表1 魚種の検索及び測定等の結果

検 索 結 果	ギンザケ	ヒメマス	ギンザケ	ニジマス	ギンザケ	
採 捕 月 日	10月4日	10月4日	10月19日	11月10日	11月10日	
採 捕 場 所	西の越	西の越	ヒラー	東岸の水路	東岸の水路	
採 捕 方 法	刺網(4節)	刺網(4節)	刺網(5寸目)	投網(14節)	投網(14節)	
採 捕 者	水技センター	水技センター	西湖漁協	水技センター	水技センター	
体 重(g)	261	480	3,410	115	169	
全 長(mm)	263	358	665	207	254	
尾 叉 長(mm)	249	332	643	205	242	
体 長(mm)	226	300	577	181	223	
体 高(mm)	71	79	146	47	52	
体 幅(mm)	36	44	80	28	32	
眼 径(mm)	9	11	15	9	10	
上 顎 長(mm)	38	46	104	22	28	
頭 長(mm)	63	84	169	45	57	
吻 長(mm)	21	26	68	12	15	
背 鱗 基 底 長(mm)	29	33	61	27	25	
背 鱗 高(mm)	33	48	88	21	30	
尻 鱗 基 底 長(mm)	33	41	72	18	27	
尻 鱗 最 長 鱗 条 長(mm)	27	35	65	20	22	
背 鱗 条 数	10	10	11	8	11	
尻 鱗 条 数	15	13	13	11	14	
胸 鱗 条 数	15	13	15	13	14	
腹 鱗 条 数	10	9	9	10	10	
鰓 耙 数	10+18=28	16+24=40	9+13=22	8+11=19	14+14=28	
側 線 鱗 数			132			
鰓 条 骨 数	11	11	12	10	11	
鋤骨部及び口蓋骨部隆起の形状	小字型	小字型	小字型	T型	小字型	
体側の紫赤色縦帯	なし	なし	なし	薄くある	なし	
黒色斑点	大きさ	眼径より小さい	なし	眼径より小さい	眼径より小さい	
	分 布	背部と尾鱗全面	なし	背部と尾鱗上葉	腹部を除く全面	背部と尾鱗全面
	数	やや多い	なし	少ない	多い	やや多い
赤 色 点	なし	なし	なし	なし	なし	
性 別	雄	雄	不明	不明	不明	
尾鱗先端の形状	鈍鋭	先鋭	先鋭	鈍鋭	鈍鋭	

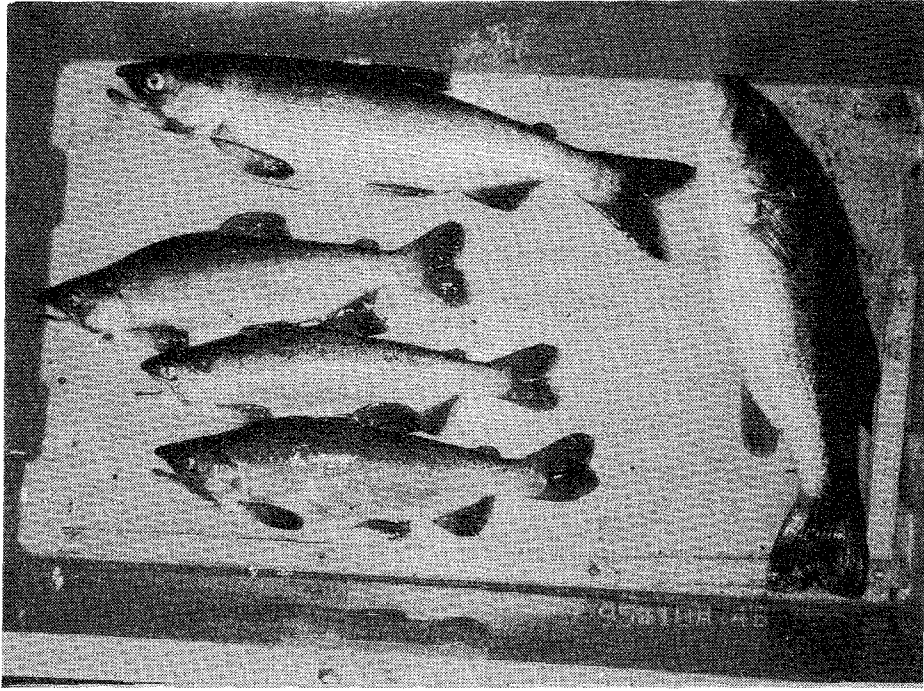


図1-1 10月4日に採捕したヒメマスとギンザケ
ヒメマス：左上の1個体、ギンザケ：左下の3個体

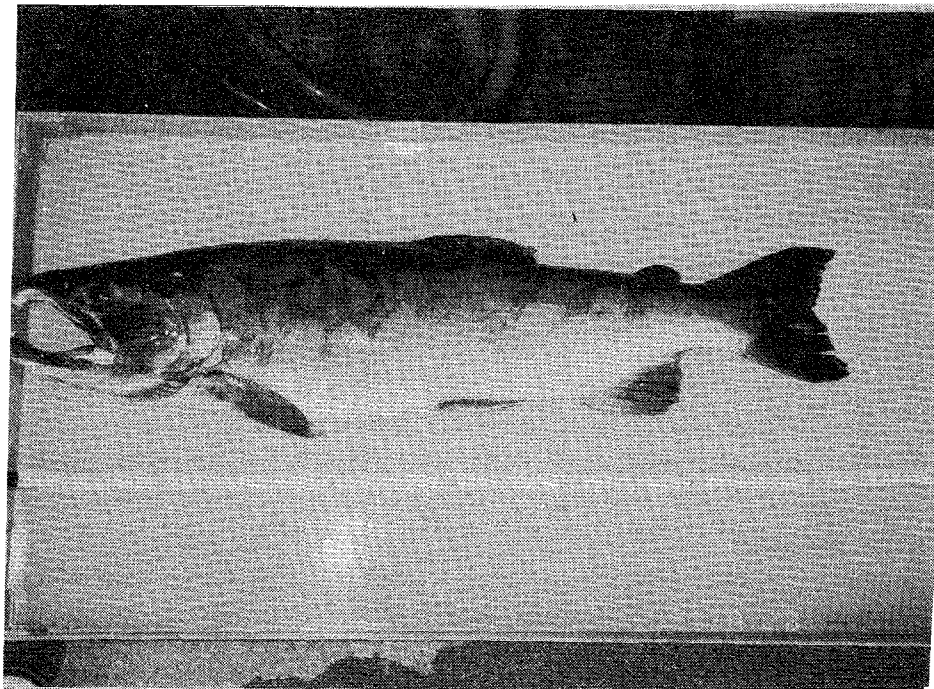


図1-2 10月19日に採捕したギンザケ

検索の結果は、ヒメマス、ギンザケ、ニジマスであった。

ヒメマスは西湖漁協の漁業権魚種となっていて、毎年放流が行われている。ギンザケ及びニジマスは漁業権魚種となっていないが、1994年1月に漁協はギンザケ大小2群合計で11,000尾を放流している。

10月4、19日に採捕されたギンザケは、尾鰭の先端が丸くなっていたものもいたがスレや傷等はないため、放流後かなり経っていると考えられ、漁協が放流した個体と思われた。

なお、10月19日に採捕されたギンザケは、雄で精巣重量が231.2g（体重比6.8%）あり、今季中に成熟し産卵に参加すると考えられた。また鱗相には3つの休止帯及びサクラマスの雄と同様な、鱗の外縁部が吸収され成長腺が不連続な産卵記号³⁾が2つ観察され、3+で2回の産卵に参加していると考えられた。胃内容物はなかったものの、その年齢と大きさから放流後に降湖型として魚食性を示し、急激に成長したと考えられる。

つまり、ギンザケはその魚食性によって、直接他の魚に影響を与える可能性があるため、安易な放流は行うべきでないと考えられた。

なお、11月10日に採捕されたニジマスとギンザケは体表にスレや傷があり、鰭の先端も丸いことから放流後あまり日が経っていないものと考えられ、組合が10月30日放流したヒメマス成魚3,000尾にギンザケやニジマスが混入していた可能性が高いと思われた。

文 献

- 1) 大浜秀規・高橋一孝・岡崎 巧(1996)：山梨県水産技術センター事業報告書，24，16-29.
- 2) 中坊徹次編(1993)：日本産魚類検索-全種の同定-，東海大学出版会，1474.
- 3) 木曾克裕(1995)：中央水産研究所研究報告，7，1-188.